

2008 年

10 月 14 日（火曜日） - 農とともに生きづくまちづくり 全国土地改良大会 -

本日、秋田に出張をさせていただきました。「第 31 回全国土地改良大会秋田大会」が秋田市で開催され、京都府土地改良連合会丹後支部長として出席しましたが、京都府から約 70 名、全国各地から全約 3,900 名の関係の皆さんが参加して盛大に開催されました。

本大会は、食料自給率の低下や汚染米の大変残念な流通など食の安全・安心に関する課題が山積する中、「全国の土地改良関係者が一同に会し、農業・農村が担っている役割を広く国民にアピールするとともに、明日の活力ある農業・農村づくりのために、今できること・しなければならないことについて、考える場として開催」（大会プログラムより）されたものです。

主食の米を生産する水田稲作をはじめ先人から代々脈々と受け継がれてきたわが国農業・農地は、国民の食を生産するための生命を養う基地であるばかりか、梅雨、夏期など豊富な降水を蓄え、洪水や土くづれなどを防止する安全安心のインフラとして、また、様々な生き物の命を育む源として、農村のみならずわが国社会全体を多面的に支える蔭の力持ちであります。今、安全安心な食の基地としての期待がますます高まりをみせる中、このような農業・農地の機能に加えて、土地改良農地などにおいては、農村環境を積極的に活かして農家の皆さんのみならず非農家の地域の皆さんと一緒に、農とともに発展するまちづくりをけん引するさまざまな事業が進められています。例えば、土地改良農地などの豊かな農村環境を活かして、①学校教育と連携し、川クリーン作戦や農村ウォーキングや、農村環境について考える小学校への出前授業、「子ども環境サミット」の実施、②土地の歴史学習と環境学習との融合、③地域の皆さんと協働して、生態系保全や水源涵養林植栽、ボランティアによる用地・水利施設の点検などの取り組みが、今全国各地で、土地改良区の皆さんや地域の皆さんを中心に進められており、農とともにまちが豊かに生きづきはじめています。

大会が行われた秋田は、日本で最も土地改良を重視し精力的に進めている地域の一つで、集落営農の組織率は日本一、食料自給率も米で 670%、食全般で 170%の我が国を代表する農業県であり、また当市にも所縁のある小野小町の出生地とも伝えられる地域です。本市は、小野小町の終焉の地ではありますが、国営農業団地としては 668.8 ヘクタールという規模で整備された農業団地はじめ、延べ 3,975 ヘクタールの京都府下最大の農地面積を有する豊穰の「農の郷（さと）」であります。本市におきましても、今後とも、日本一の美味しさを誇る特 A 級の米づくり、折り紙つきの京たんご梨などの果樹、京野菜など本市の素晴らしい農業をより一層発展させるとともに、広大な土地改良区の仲間の皆さん、農業者の皆さん、市民の皆さんと力を合わせて農家・非農家が一緒にな

って地域が協働して、本市の豊かな農村環境が生態系や環境保全、環境教育、環境観光など広く地域づくり・活性化のうえに積極的に活かされるまちづくり、新しい「環境の世紀」の時代にふさわしい農とともに地球環境と共生するまちづくりをますます進めていきたいと願っております。